

# 石綿疾病17人が「阪神・淡路」経験

石綿(アスベスト)健康被害救済制度により石綿が引き起こす疾病を発症して医療費や弔慰金を受けた2021、22年度の被認定者のうち、17人が阪神・淡路大震災の復旧作業やボランティアに関わったと、独立行政法人環境再生保全機構(川崎市)のアンケートに答えていたことが分かった。震災時の石綿飛散と発病との因果関係は不明だが、被災地にいた一般市民の石綿被害を示唆する結果となった。(22面に関連記事)

## 21、22年の認定者調査

### 発症との因果関係不明 ボランティア参加者も

神戸新聞社の同機構に対する情報公開請求で明らかになった。同機構は、労災の対象とならない石綿被害者の実態を調査するため06年度から居住地域や職業、疾病の種類

を調査する。アンケートは、どの震災を経験したかを尋ねた上で、①被災した自宅や石綿建材を片付けた②震災復旧作業③震災ボランティア活

動に該当するかどうかを質問した。震災経験を明記したのは計25人。うち阪神・淡路が17人、具体的な記載なしが8人、東日本大震災が1人(阪神・淡路と重複)だった。21年は震災の質問項目がないアンケートも配布されたが、回答者952人のうち3人が阪神・淡路の復旧作業に関わったと回答。22年は回答者総数が現時

点で非公開放だが、10人が復旧作業、2人が石綿建材の片付け(うち1人は復旧作業と重複)、2人がボランティア活動と答えた。1人が阪神・淡路への関連にチエックがあったものの、①③への答えがなかった。当時の職業が「建設業」とする人がいたほか、石綿被害の多い尼崎市に居住する人もいたため、震災と発症の因果関係は明確ではな

い。だが、阪神・淡路発生後、ビルの耐火材などに使用されていた石綿が飛散し、大気中の石綿濃度が上昇したことは明らかであり、被災地入りしていたボランティアや一般市民の発症が懸念されている。石綿を吸引から発症までの潜伏期間が十数年から50年とされ、今後、被害が本格化する恐れがある。機構はアンケートを継続し、データを蓄積して分析するという。

(中部 剛)

類などを尋ねるアンケートを実施。近年、震災後の業務で石綿疾病を発症した人の労災が認められる事案があったが、一般市民への影響が明らかになっておらず、21年度から震災に関する項目を加えた。

アンケートは、どの震災を経験したかを尋ねた上で、①被災した自宅や石綿建材を片付けた②震災復旧作業③震災ボランティア活

動に該当するかどうかを質問した。震災経験を明記したのは計25人。うち阪神・淡路が17人、具体的な記載なしが8人、東日本大震災が1人(阪神・淡路と重複)だった。21年は震災の質問項目がないアンケートも配布されたが、回答者952人のうち3人が阪神・淡路の復旧作業に関わったと回答。22年は回答者総数が現時

点で非公開放だが、10人が復旧作業、2人が石綿建材の片付け(うち1人は復旧作業と重複)、2人がボランティア活動と答えた。1人が阪神・淡路への関連にチエックがあったものの、①③への答えがなかった。当時の職業が「建設業」とする人がいたほか、石綿被害の多い尼崎市に居住する人もいたため、震災と発症の因果関係は明確ではな

### 石綿健康被害救済制度で認定され、 阪神・淡路大震災に関わったと答えた人 (2021、22年度)

### 阪神・淡路経験 石綿疾病17人

性別	年齢	疾病名	震災との関わり	被災時の居住地	被災時の職業	主なコメント
男性	85	肺がん	震災復旧	京都府亀岡市	建設業	
男性	64	中皮腫	震災復旧	芦屋市	建設業	
男性	82	中皮腫	震災復旧	大阪府豊中市	サービス業	震災1年後、芦屋で家屋調査
女性	62	中皮腫	震災復旧	三重県桑名市		がれきの街中を歩いた
男性	81	中皮腫	震災復旧	大阪府松原市	建設業	
男性	81	中皮腫	震災復旧	大阪府守口市	建設業	塗装
男性	87	中皮腫	震災復旧	神戸市垂水区	建設業	仮設住宅建設
女性	79	中皮腫		大阪市大正区		
男性	86	中皮腫	震災復旧	川崎市麻生区	サービス業	木造住宅耐震診断・補強設計監理
女性	80	中皮腫	被災した自宅で石綿建材片付け	神戸市北区	製造業	
男性	66	中皮腫	震災復旧	大阪府東大阪市	建設業	
男性	58	中皮腫	震災復旧	大阪市都島区		電気工事
男性	72	中皮腫	被災した自宅で石綿建材片付け	大阪府茨木市	建設業	
男性	78	中皮腫	ボランティア	神戸市垂水区	サービス業	理髪業
男性	71	中皮腫	震災復旧	静岡県富士宮市	建設業	水道管敷設工事
男性	63	中皮腫	震災復旧	大阪市東淀川区	建設業	
男性	74	中皮腫	ボランティア	尼崎市	製造業	水を運んだ

※独立行政法人環境再生保全機構への情報開示請求より。年齢は認定申請時か死亡時。★の回答者は東日本大震災との関わりも明記

# 危険な青石綿建材から飛散 ガーゼマスク 防御効果低い

阪神・淡路大震災の復旧やボランティアに関わった人の石綿（アスベスト）被害を示唆する独立行政法人環境再生保全機構のアンケートについて、検討・助言する「石綿による健康被害に係る専門家からなる委員会」委員2人に聞いた。  
(1面参照)

## 専門家2人に聞く

今回のアンケート結果をどう見るか。独立行政法人労働安全衛生総合研究所フェロー研究員・神山宣彦氏「きちっとしたデータではないので、まだ評価はできない。震災後の石綿飛散により労働者が労災として認定されている例があるので、一般

の人の石綿被害も『あり得る』と考えてアンケートを実施した。環境再生保全機構顧問医師・森永謙二氏「建設業に携わっている人もおり、震災の影響なのかどうか分からない。震災時の石綿飛散は健康への影響があるか。

神山氏「私も発生後に阪神・淡路の被災地に入っただが、ほりでもうもうとしていた。多くの人はガーゼマスクを着用していたが、ほりに石綿が混じっていた場合、ガーゼマスクの防御効果は低かった」

森永氏「震災当時は健康への影響が大きい」吹き付けの青石綿が見つかった。青石綿で高濃度暴露だと中皮腫を発症する可能性があることは、尼崎のクボタ問題で明らかだ。ただ、石綿を吸い込んだからといって全員が石綿疾病を発症するわけではない」

森永氏「10年、20年と続け、震災の石綿飛散と健康被害の影響を見るモニタリングのようなものになれば良い。石綿を吸い込んだ可能性のある人はいつからいつまで、どこで、どのような作業をしていたのか記録しておくべきだろう」  
(聞き手・中部 剛)



石綿は耐火性、防音性に優れ、多くの建築物に利用された。阪神・淡路大震災で倒壊した建物は、石綿がむき出しになったり、飛散防止策が十分でないまま解体されたりし、大気中の石綿濃度が上昇した。

## 解体現場アスベスト濃度高く

一般大気中の石綿濃度は「大気1立方メートルにつき石綿繊維10本以内」が目安とされており、神戸市の調査では1995年2月の中央区役所では4・9本が最大だった。一般大気の調査結果は深刻な数字とは言えなかったが、建築物解体現場周辺の調査では、同市長田区で目安の2倍近い19・9本を検出。さらに大阪市の民間団体、環境監視研究所の中西重晴氏(現・熊本学園大学教授)は神戸市東灘区のマンション解体現場付近で16

## 公務災害、労災 5人認定

震災後、建物の解体付近を通る市民ら。粉じんが無い、マスクをする人も多かった。1995年1月31日、神戸市中央区

0本、250本という高濃度の石綿を検出した。これまで解体や復旧にかかわった労働者4人が石綿疾病を発症し、労災認定された他、警察官1人が公務災害として認定された。がれき回収にあたった明石市職員1人も腹膜中皮腫を発症しており、公務災害として認定されていないものの、被害が疑われている。だが、被災地で活動したボランティアや一般市民の石綿被害は明らかになっていない。復旧復興の混乱の中、被災地は解体現場と生活空間の区別がなく、解体現場付近を通じて通勤通学する人もいた。環境再生保全機構のアンケートは、ボランティアを含めた一般市民の石綿被害実態解明に役立つ可能性がある。